

第51回「ふれあいトーク」当日のやりとりコメント

【1】 村長さんだけが持っている村のマークについて

夏休みの課題で村のマークについて調べている。

①村長しか持っていないマークはあるか？

⇒【村長コメント】

町村長だけが持っているマークはあるが、東海村長だけが持っているマークは残念ながら無い。職員証は村長と名前が書かれているので、後日、写真にとって送付する。

②村のマークの由来はなにか？

⇒【村長コメント】

「とうかい」の「と」を原子力の γ （ガンマー）と太平洋の波で模様化したもの。

【2】 災害に強い街づくりについて

6月18日に起こった大阪北部地震ではライフラインの復旧が3日程度と東日本大震災と比べて早かった。高槻市や茨木市では災害に強い街づくりをしているのではないかと参考にしてはどうか。

⇒【村長コメント】

復旧が早かった理由は何か。東日本大震災後に対策を行ったのか、そもそも被害が小さかったのか、小さかったのであれば被害を小さくするための対策をとっていたのか。どのような状況だったかを確認し、後日、結果を担当課から連絡する。

⇒【防災原子力安全課コメント】

石井様の御意見を受け、何か参考にできるものがあればと思い、先般、大阪府高槻市に問い合わせを行いました。内容については下記のとおりです。

- ・高槻市においては、東日本大震災において東海村が観測した震度と同じ「震度6弱」を記録しているが、地震の規模を示すマグニチュードは、東日本大震災が9.0であったのに対し、今回の大阪府北部地震では6.1であった。高槻市の担当者も、ライフラインの被害は小さかったと述べています。
- ・高槻市の担当者の話では、老朽化した水道管や下水道管の耐震は現在も進行中であり、災害に備えた対策として特別なことはなかったとのこと。
- ・高槻市は1995年に阪神・淡路大震災を経験しており、その経験を踏まえ、防火水槽の整備や、防災公園への貯水槽の設置などを進めています。
- ・茨木市についても被害状況は同様であり、大阪府の資料からは、茨木市は、地域住民を交えた災害時の避難所運営訓練や、子育て中の保護者や子どもたちを対象とした防災啓発イベントなどを開催していることが伺えました。
- ・村においても、防災に関する他自治体の取組みについて情報収集に心掛けていますが、今般、石井様の御意見を契機に、大阪府高槻市や茨木市の取組事例を知ることができ、大変勉強になりました。今後も、先進事例などの情報収集などに努め、災害に強い、安全・安心なまちづくりに取り組んでいきたいと思っております。
- ・この度は貴重な御意見を頂戴し、ありがとうございました。

【3】 看板等について

①原発に関する看板について

来年国体もあり、東海村のイメージマイナスにつながるのではないかと。

⇒ 【村長コメント】

残念ではあるが行政として看板の設置者に何か言うことはできない。

②免許返納について

免許返納した場合、村はどのような対応になるかと。

⇒ 【村長コメント】

返納した方には東海村デマンドタクシー利用券 21,000 円分、茨城交通 IC カード乗車券「いばっぴ」 20,500 円分、東海村商工会「共通金券」 20,000 円分のいずれかを交付している。返納した方の移動手段として、バスやデマンドタクシーがあるが、利用については課題がある。

③議員の定数について

村議会の議員定数や報酬は多いかと。

⇒ 【村長コメント】

那珂市等と比較すると多い。議員定数については、村議会も考えており、今後、動きが出てくると思う。

④原子力発電所の廃炉について

東海第二原子力発電所が廃炉になった場合、何年くらいかかり、村はいくら負担するのか。また、雇用に影響はでるか。

⇒ 【村長コメント】

廃炉に何年要するか正確な数字は分からない。費用は村からは支出せず日本原子力発電が支出するが、少なからず税収は減少する。雇用についても色々な影響は出てくると考えている。

※特筆事項がなかった方につきましては、掲載を割愛させていただきます。